

Ⅲ 臨床編
Ⅲ-7 免疫疾患

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
アイソタイプ	あいそたいぶ	isotype			免疫グロブリン分子のサブクラスのこと。
アデノシンデアミナーゼ欠損症	あでのしんであみなーぜ欠損症	adenosine deaminase deficiency	ADA欠損症		アデノシンデアミナーゼ(ADA)欠損により、液性免疫、細胞性免疫がともに障害される重症複合型免疫不全症。
アナジー	あなじー	anergy			細胞性免疫能が非特異的に低下することにより、感作されている抗原に対して遅延型過敏反応が低下あるいは欠如する状態。
アナフィラキシー	あなふいらきしー	anaphylaxis			主にIgE抗体を介したI型アレルギー機序により、急激な全身状態の変化をきたす抗原特異的反応。
アルサス反応	あるさすはんのう	arthus reaction		アルツス反応	N.M. Arthusによって記載された皮膚局所の免疫反応。Ⅲ型アレルギー反応により惹起される。
アロタイプ	あろたいぶ	allotype			同じイソタイプをもつ免疫グロブリン分子のH鎖あるいはL鎖の定常領域にあり、同種他個体には抗体産生刺激源となる抗原決定基。
I型アレルギー	いちがたあれるぎー	type I allergy			即時型アレルギー反応とよばれ、抗原が体内に入るとすぐに免疫グロブリンと結合した白血球よりヒスタミンなどの遊離を起こす。
イディオタイプ	いでいおたいぶ	idiotype			個々の免疫グロブリン、またはT細胞レセプターの変異領域に存在する抗原決定基の総体。
インターフェロン	いんたーふえろん	interferon	IFN		抗ウイルス活性をもつ分子量約2万の1本のポリペプチド鎖からなるタンパク質の総称。
インターフェロンアルファ(α)	いんたーふえろん(あるふあ)	interferon alpha(α)	IFN α		好中球やマクロファージなど由来で、抗ウイルス作用のほか腫瘍増殖抑制作用などがある。
インターフェロンγ	いんたーふえろん(がんま)	interferon beta(γ)	IFN γ		T細胞やNK細胞から分泌されるサイトカインで、白血球による炎症を強化する作用やMHC分子の発現を増加させる働き、マクロファージや樹状細胞を刺激して細菌を貪食殺菌させる作用を持つ。
インターフェロンベータ(β)	いんたーふえろん(べーた)	interferon beta(β)	IFNβ		線維芽細胞や上皮細胞などで作られ、抗ウイルス効果や抗腫瘍効果を有するタンパク質。
インターフェロン療法	いんたーふえろんりょうほう	interferon therapy			インターフェロンの抗ウイルス効果や抗腫瘍効果を利用した治療法。
インターロイキン	いんたーろいきん	interleukin	IL		リンパ球やマクロファージなど、免疫応答の制御に關与する免疫担当細胞が産生するサイトカインの一種。
インターロイキン6	いんたーろいきんしつくす	interleukin-6	IL-6		T細胞やマクロファージを含む様々な細胞から分泌されるサイトカインで、炎症性サイトカインおよび抗炎症性サイトカインの両方として作用し、リンパ球および単球分化に關与し、B細胞がIg分泌細胞に最終分化するために不可欠な役割を果たす。血中IL-6値は、免疫炎症反応の程度を反映する。
インターロイキン2	いんたーろいきんつー	interleukin-2	IL-2		抗原刺激を受けたT細胞より分泌されるサイトカインで、IL-2産生細胞表面に発現した特異的レセプターを介して増殖を促す。
インターロイキン10	いんたーろいきんてん	interleukin-10	IL-10		Th2細胞から産生され、Th1細胞からのサイトカイン産生を抑制する。当初は、サイトカイン合成阻害因子(CSIF)と呼ばれた。分子量は、3.5-4万の二量体。
インターロイキン5	いんたーろいきんふあいぶ	interleukin-5	IL-5		ヘルパーT細胞より抗原やマイトジェン刺激により分泌される糖蛋白で、好酸球の増殖分化因子として作用する。
インターロイキン4	いんたーろいきんふおー	interleukin-4	IL-4		活性化T細胞、肥満細胞より産生され、B細胞、T細胞、胸腺細胞、肥満細胞、マクロファージなど種々の免疫細胞・造血系細胞に作用し、特に生体内ではIgE産生を促進する。
インターロイキン1	いんたーろいきんわん	interleukin-1	IL-1		単球、マクロファージ由来の代表的なサイトカイン。分子量17.5万のポリペプチド。
インテグリン(ファミリー)	いんてぐりん(ふぁみりー)	integrin(family)			特徴的な構造をもつ接着分子の一群で、ファミリーを形成する。白血球の炎症部位への遊走やリンパ球ホーミングなどに重要な働きをしている。
インテグリンβ1サブファミリー	いんてぐりんベータわんさぶふぁみりー	very late(activation)antigen	VLA		ヒトT細胞(リンパ球)をマイトジェン刺激後数週間て発現が増強する後期活性化表面抗原として同定された。
インデュサーT細胞	いんでゅーさーていーさいいぼう	inducer T lymphocyte	inducer T cell	ヘルパーT細胞	エフェクター細胞と異なり機能細胞としては働かないが、ほかの細胞の分化を活性化または不活性化して免疫応答を調節する機能をもつT細胞集団。
ウェスタンブロット法	うえすたんぶろっとほう	western blotting			抗体を用いて、特定のタンパク質を同定、または定量する生化学的方法の一つ。
液性免疫	えきせいいめんえき	humoral immunity			B細胞が主体となって、抗体を作ることで異物に対抗する免疫反応。
液体クロマトグラフィー	えきたいくろまとぐらふいー	liquid chromatography			移動相として液体を用いるクロマトグラフィーの総称。狭義にはカラムクロマトグラフィーの一種で、カラム内で分離後も展開溶媒を流し続け、各成分を順次流出させて連続定量あるいは分取する方法。
SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動法	えすでいーえすーぼりあくりるあみどげるでんきえいどうほ	SDS-polyacrylamide gel electrophoresis	SDS-PAGE		タンパク質を2-メルカプトエタノールなどの還元剤とともに界面活性剤SDSを含むポリアクリルアミドゲル電気泳動法を行いタンパク質を分解する方法。
NK細胞	えぬけいさいいぼう	natural killer cell			特定の抗原がなくても異常な細胞を感知し、直接除去し、後天性の免疫細胞(樹状細胞、B細胞、T細胞)の活性を誘導し、免疫反応と炎症反応を調節し、がん幹細胞や循環腫瘍細胞を効果的に除去する免疫細胞。
エフェクター細胞	えふえくたーさいいぼう	effector cell			生体が示すさまざまな免疫反応において、標的となる異物に直接的に働いて免疫効果を発現させる役割を担っている細胞。
Fc受容体	えふしーじゅうたい	Fc receptor	FcR		免疫グロブリンのFc部分と結合するレセプター。
オートファジー	おーとふあじー	autophagy			自食を意味する細胞内タンパク分解システム。細胞内で不要となったオルガネラや貪食細胞が取り込んだ病原微生物などを隔離膜と呼ばれる膜で取り囲み、ライソゾームと融合して消化吸収するシステム。
オプソニン	おぶそにん	opsonin			細菌などの微生物や粒子に付着して、マクロファージや好中球の食細胞によるファゴサイトーシス(食作用)を受けやすくする血漿や体液中に存在する物。
獲得免疫	かくとくめんえき	acquired immunity			リンパ球が中心となり外来抗原や病原体に特異的に反応し、指数関数的に増殖して強力な作用を示す。自然免疫で処理しきれない異物に対しては樹状細胞が獲得免疫への橋渡しをする。
カスパーゼ	かすぱーぜ	caspase			アポトーシスにかかわるプロテアーゼ。
拮抗薬	きっこうやく	antagonist	アンタゴニスト	遮断薬	レセプターに結合してアゴニストとレセプターとの結合を阻害する物質。
キメラ抗体	きめらこうたい	chimera antigen			複数の抗体から人工的に作製した抗体。
キメラマウス	きめらまうす	chimera mouse			複数の胚細胞同士を接着させて発生させ、発生分化や形態形成などの研究分野で用いられるマウス。
逆転写酵素	ぎゃくてんしゃこうそ	reverse transcriptase		RNA依存性DNAポリメラーゼ	一本鎖RNAを鋳型にして相補的な塩基配列をもつDNAに逆転写する酵素。
共刺激分子	きょうしげきぶんし	costimulatory molecule			T細胞の抗原認識の際にT細胞抗原レセプター(TCR)の反応性を補助する分子群。
拒絶反応	きよぜつはんのう	rejection			移植された非自己の組織・細胞を生体が異物として排除しようとする反応。
キラーT細胞	きらーていーさいいぼう	killer T cell			CD8+T細胞、細胞表面に発現しているT細胞受容体によりがん抗原を特異的に認識し、殺傷する。
クローニング	くろーにんぐ	cloning			DNA組換え技術で、特定配列をもつ細菌などの細胞を検出し、単離して別個の系統として増殖させること。
蛍光抗体法	けいこうこうたいぼう	fluorescent antibody technique			免疫組織化学の一つであり、対象とする抗原物質に対する抗体を蛍光色素で標識して抗原抗体反応を実施し、励起光照射で発せられる蛍光像を観察することにより抗原物質の所在を調べる方法。
ケモカイン	けもかいん	chemokine			chemotactic cytokinelに由来する語。分子量8-12 kD程度の分泌タンパク質で、それぞれ特定のタイプの白血球を遊走する。
ゲル電気泳動法	げるでんきえいどうほう	gel electrophoresis			電場を与えたゲル状の支持体の中でタンパク質や核酸などの電荷を帯びた物質を分離分析する方法。
抗原	こうげん	antigen	Ag		動物に投与することにより、非自己と認識され抗体の産生を含む各種免疫現象や免疫寛容(tolerance)状態を成立させる物質。
抗原提示細胞	こうげんていじさいいぼう	antigen presenting cell	APC		抗原ペプチドをMHC分子に結合させて、抗原特異的T細胞に提示し、その活性化を誘導する細胞。
交差反応	こうさはんのう	cross reaction			ある抗原で免疫して得られた抗体が、他の抗原にも反応して結合する現象。
高速液体クロマトグラフィー	こうそくえきたいいくろまとぐらふいー	high performance liquid chromatography			液体の移動相をポンプなどによって加圧してカラムを通過させ、分析種を固定相及び移動相との相互作用(吸着、分配、イオン交換、サイズ排除など)の差を利用して高性能に分離して検出する分析方法。
酵素抗体法	こうそこうたいぼう	enzyme immunoassay	EIA		微量な物質を特異的な抗体を用いて検出、定量する方法。
酵素免疫測定法	こうそめんえきそくていぼう	enzyme-linked immunosorbent assay	ELISA	固相酵素免疫定量法	抗原あるいは抗体に酵素を共有結合で結合させたものをプローブとし、抗体あるいは抗原の存在を抗原抗体反応を利用して測定する方法。

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
抗体	こうたい	antibody	Ab		生体内に生体を構成するもの以外の物質が侵入してくると、その物質と厳密に1対1の対応性をもって結合するタンパク質。
抗体依存性細胞媒介性細胞傷害作用	こうたいいぞんせいさいいぼうはいかいせいさいいぼうしょうがいさよう	antibody dependent cell-mediated cytotoxicity	ADCC		抗体分子のFc部分に対するレセプター（Fcレセプター）をもった免疫細胞が、抗体の結合を受けた標的細胞を傷害する機構。
好中球	こうちゅうきゅう	neutrophil			強い殺菌・貪食能力を持ち、細菌や真菌感染から体を守る主要な防御機構をなす白血球の中の顆粒球の一種で、白血球全体の約45-75%を占める。
V型アレルギー	ごがたあれるぎー	type V allergy			抗体が結合することにより、組織傷害が起こるかわりに、機能亢進がもたらされる。
コロニー刺激因子	こうにーしげきいんし	colony stimulating factor	CSF		造血因子のうち、in vitroでのコロニー形成を指標に単離された生理活性物質で、多くは分子量20万前後の液性因子である。
サイトカイン	さいとかいん	cytokine			感染や外傷などの刺激に対し免疫担当細胞から産生される可溶性ペプチドまたは糖タンパク。標的細胞表面に存在する特異的受容体を介して極めて微量で生理作用を示し、細胞間の情報伝達を担う。
サイトカインストーム	さいとかいんすとーむ	cytokine storm			感染や薬剤投与などの原因により、血中サイトカインの異常上昇が起こり、その作用が全身に及び好中球の活性化、血液凝固機構活性化、血管拡張などを介して、ショック、播種性血管内凝固症候群、多臓器不全にまで進行する状態。
細胞傷害性Tリンパ球	さいいぼうしょうがいせいいてーりんぱきゅう	cytotoxic T cell	CTL		個体の細胞、腫瘍細胞、ウイルス感染細胞、化学物質が表面に結合した細胞などに結合し、それを傷害する作用を示すT細胞。
細胞性免疫	さいいぼうせいめんえき	cell-mediated immunity	CMI		局所的に起こる免疫反応で、抗体が関与せず、細胞障害性T細胞やマクロファージが直接細胞を攻撃する免疫反応。
サプレッサーT細胞	さぶれっさーていーさいいぼう	suppressor T cell			細胞性免疫・液性免疫を含めて、免疫反応を抑制する機能をもつT細胞集団。
作用薬	さようやく	agonist			レセプターに結合して生理的応答を引き起こす物質。
Ⅲ型アレルギー	さんがたあれるぎー	type III allergy			免疫複合体型のアレルギー反応。
CD抗原	しーでいーこうげん	cluster of differentiation antigen			CD分類により番号付けされた抗原。現在、CD1-CD247がある。
自己寛容	じこかんよう	self tolerance			正常な個体の構成細胞や組織に由来する抗原（自己抗原）に対して免疫学的応答が消失ないし、抑制されている状態。
自然免疫	しぜんめんえき	innate immunity			マクロファージ、好中球などの貪食細胞や樹状細胞が中心となる抗原非特異的な初期応答。
樹状細胞	じゅじょうさいいぼう	dendritic cell	DC		リンパ節や脾臓に存在する樹状構造を持つ抗原提示細胞。血液中にも低レベルで存在する。異物（抗原）の貪食、プロセッシング、特異的に反応するT細胞への抗原提示など、免疫応答に重要な役割を担う。
腫瘍壊死因子α	しゅようえしいんし あるふあ	tumor necrosis factor α	TNFα		マウスや他動物にBCGなどを投与すると血清内に出現する因子で、腫瘍細胞に対して傷害活性を有する。
腫瘍壊死因子β	しゅようえしいんし べーた	tumor necrosis factor β	TNFβ		TNF-αと類似した生物活性を有し、炎症や免疫反応のメディエーターの役割を担い、細胞増殖、分化、アポトーシス、脂質代謝、神経伝達などに関与する。
主要組織適合遺伝子複合体	しゅようそしきてきごういでんしふくこうたい	major histocompatibility complex	MHC		免疫系において重要な役割を担っている主要組織適合抗原（MHC分子）をコードする一連の遺伝子領域。
スーパーオキシドディスムターゼ	すーぱーおきしどでいすむたーぜ	superoxide dismutase	SOD		超酸化物不均化酵素の一種。
スーパー抗原	すーぱーこうげん	superantigen			T細胞抗原レセプター（TCR）を介して個々のクローンの枠を超えてT細胞にシグナル（活性化あるいは不活性化）を与える物質。
スニップ	すにっぷ	single nucleotide	SNP		ゲノム上の相同部位の個体間による1塩基の違いを示すもの。
赤血球ロゼット	せつけつきゅうろぜっと	erythrocyte rosette	Eロゼット		ヒトのT細胞はヒツジ赤血球と結合する性質をもち、周辺に多数のヒツジ赤血球を結合してロゼット（花冠）状になること。
接着分子	せつやくぶんし	adhesion molecule			細胞接着に関与する分子の総称。正しくは細胞接着分子。
セレクチンファミリー	せれくちんふぁみりー	selectin family			特定の糖鎖を認識するC型セレクチン様構造をN末端にもつ糖タンパク質の一群で、白血球の血管外移動に関与する接着分子。
線維芽細胞増殖因子	せんいがさいいぼうぞうしよくいんし	fibroblast growth factor	FGF		大脳および脳下垂体中に存在して線維芽細胞のDNA合成・増殖を促進する分泌性タンパク質として分離精製された。
走化性	そうかせい	chemotaxis	ケモタキシス		細胞が環境中の化学物質の濃度差に反応して、その化学物質に対して方向性に移動する性質。
即時型アレルギー	そくじがたあれるぎー	immediate-type hypersensitivity			数秒から2-3時間以内に起こるアレルギー反応。
体液性免疫	たいえきせいめんえき	humoral immunity			抗体や補体などの体液性免疫系を構成する細胞外体液性因子が関与する免疫。
遅延型アレルギー	ちえんがたあれるぎー	delayed type hypersensitivity	DTH		T細胞からのサイトカイン放出を契機とする炎症性の組織反応。
Th2細胞	ていーえいちつーさいいぼう	Th2 cell			主としてIL-4、IL-5、IL-10などを産生し、液性免疫反応を制御するCD4+ヘルパーT細胞亜集団（サブセット）。
Th1細胞	ていーえいちわんさいいぼう	Th1 cell			主としてIL-2、INFγなどを産生し細胞性免疫反応を制御するCD4+ヘルパーT細胞の亜集団（サブセット）。
DNA依存性RNAポリメラーゼ	でいーえぬえーいぞんせいあーえぬえーぼりめらーぜ	RNA polymerase	RNAポリメラーゼ		ヌクレオチドを重合させ、RNAを合成する酵素。RNAポリメラーゼⅠ・Ⅱ・Ⅲが含まれる。
DNAポリメラーゼ	でいーえぬえーぼりめらーぜ	DNA polymerase			鋳型DNAに依存してDNA鎖の重合を触媒する酵素の総称。
T細胞	ていーさいいぼう	T cell			細胞表面に発現するT細胞抗原受容体を介して、マクロファージや樹状細胞などの抗原提示細胞から抗原情報を受け取り、さまざまな機能を発揮するリンパ球。リンパ球の約60-80%を占める。キラーT細胞とヘルパーT細胞に大別される。
T細胞抗原レセプター	ていさいいぼうこうげんれせぷたー	T cell receptor	TCR		T細胞表面の抗原レセプターの総称。
転写	てんしや	transcription			DNAのヌクレオチド配列が鋳型となり、これと相補的な配列をもつRNAを作成すること。
トランスジェニックマウス	とらんすじえにつくまうす	transgenic mouse			外来遺伝子をマウス受精卵に導入し、その遺伝子を染色体に組み込んだマウス。
貪食作用	どんしよくさよう	phagocytosis			単球、マクロファージや好中球など食細胞が外来性ならびに内因性の大きな粒状の異物を摂取する現象。
ナイーブ細胞	ないーぶさいいぼう	naive cell			抗原に曝されたことのないリンパ球のこと。
Ⅱ型アレルギー	にがたあれるぎー	type II allergy			細胞溶解型あるいは細胞傷害型のアレルギー反応。
ノックアウトマウス	のくくあうとまうす	gene knockout mouse			遺伝子ターゲティングにより、後天的に特定の遺伝子を破壊し欠損させたマウス。
ハプテン	はぶてん	hapten			単独では抗体を生産させる抗原性がないが、タンパク質等と結合して抗原性を示す比較的低分子量の物質。
B細胞	びーさいいぼう	B cell			体内に侵入した病原体を排除するために必要な抗体を作り出し、体液性免疫に関わるリンパ球。リンパ球の約20-40%を占める。
ヒト白血球抗原	ひとはつけつきゅうこうげん	human leukocyte antigen	HLA		ヒトのMHCであるHLAは、6番染色体の短腕上（6p21.31）に約4,000 kbにわたって存在する。
Fas抗原	ふあすこうげん	Fas antigen			分子量45,000のI型膜貫通タンパク質で、319アミノ酸残基から構成され、アポトーシス誘導シグナルを伝達するレセプター分子。
ヘルパーTリンパ球	へるばーていーりんぱきゅう	helper T cell			B細胞が抗原と反応して増殖し抗体産生を誘導したり分化成熟を補助する作用をもつT細胞。
ホーミング	ほーみんぐ	homing			リンパ球が特定の組織から出て、再びその組織に戻ってくることを指す。
補体	ほたい	complement			抗体の反応を補って、溶菌、溶血や、白血球の遊走、貪食などの際に補助的因子として作用するタンパク群の総称。
補体価	ほたいか	50% hemolytic complement activity	CH50		古典経路（C1-C9）の総合的な活性を示す指標。
ポリメラーゼ連鎖反応	ぼりめらーぜれんさはんのう	polymerase chain reaction	PCR		特定のDNA断片だけをin vitroで増殖する方法。

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
マクロファージ	まくろふあーじ	macrophage	MF	大食細胞, 貪食細胞	アメーバ状の細胞で、生体内に侵入した細菌、ウイルス、または死んだ細胞を捕食し消化する。また抗原提示を行い、B細胞による抗体産生を促す。全身の組織に広く分布しており、自然免疫において重要な役割を担う。
マスト細胞(肥満細胞)	ますとさいぼう(ひまんさいぼ	mast cell			血管近くの多くの組織中に見られる骨髄由来細胞。免疫グロブリンE抗体に対するFc受容体を持ちタイプI型アレルギー反応に関与する。
メッセンジャーRNA	めつせんじやーあーるえぬえー	messenger RNA	mRNA		タンパク質の遺伝子情報をもち、タンパク質合成のときに鋳型として用いられ、その他の細胞表面上に広く発現し、抗体のもつエフェクター機能の一翼を担う。アミノ配列に翻訳されるRNA。
メモリー細胞	めもりーさいぼう	memory cell			一度曝されたことのある抗原を記憶し、二度目の侵入に対して特異的に二次免疫反応を起こすために免疫学的記憶を保持している細胞。
免疫グロブリン	めんえきぐろぶりん	immunoglobulin	Ig		血清中の抗体の総称でIgと略す。
免疫グロブリンE	めんえきぐろぶりんいー	immunoglobulin E	IgE	IgE	哺乳動物の免疫グロブリンの一つ。分子量18.8万の単量体。
免疫グロブリンA	めんえきぐろぶりんえー	immunoglobulin A	IgA	IgA	哺乳類、鳥類に見いだされる免疫グロブリンの一つ。分子量16万。
免疫グロブリンM	めんえきぐろぶりんえむ	immunoglobulin M	IgM	IgM	免疫グロブリンのサブクラスの一つ。分子量約97万。
免疫グロブリンD	めんえきぐろぶりんでいー	immunoglobulin D	IgD	IgD	免疫グロブリンのサブクラスの一つ。分子量18.4万の単体。
免疫グロブリンG	めんえきぐろぶりんでいー	immunoglobulin G	IgG	IgG	免疫グロブリンのサブクラスの一つ。分子量14.6万もしくは16.5万。
免疫グロブリン療法	めんえきぐろぶりんりょうほう	immunoglobulin therapy			γグロブリン製剤を用いて、ウイルス感染症や細菌毒素による疾患を治療するものである。
免疫抑制薬	めんえきよくせいやく	immunosuppressant			臓器移植の拒絶反応抑制や自己免疫疾患の治療目的に使用される。作用機序と生物学的性状から代謝拮抗薬、T細胞機能抑制薬、抗体、副腎皮質ステロイドに分類される。
免疫療法	めんえきりょうほう	immunotherapy			身体が有している、疾患防御機構へ働きかけ、全身の免疫系を賦活させることで治療する治療法。
ヤースチロシンキナーゼ	やーぬすちろしんきなーぜ	janus tyrosine kinase	JAK		分子量120-140kDaのチロシンキナーゼで、C末端側にキナーゼ様ドメインとキナーゼドメインの2つをもつ。JAKファミリーには、JAK1、JAK2、JAK3とTyk2の4種類がある。
IV型アレルギー	よんがたあれるぎー	type IV allergy			細胞性免疫反応とも呼ばれる。抗体が関与せず、T細胞とマクロファージが主な作用細胞である。
リボ核酸	りぼかくさん	ribonucleic acid	RNA		リボヌクレオシド-リン酸が重合した高分子。
リンパ球機能関連抗原	りんぱきゅうきのうかんれんこうげん	lymphocyte function-associated antigen	LFA-3		ヒト細胞傷害性T細胞(CTL)による標的細胞傷害反応に関与する分子として同定された抗原。
リンフォカイン	りんぷおかいん	lymphokine			感作に用いた抗原とともに培養した際にリンパ球から放出される種々の活性物質のうち、免疫グロブリンを除いた物質の総称。
ロイコトリエン	ろいことりえん	leukotriene	LT		アラキドン酸の5-リボキシゲナーゼ系代謝産物の総称。